

【2020年度/専門科目領域/専門科目群/理学療法学科】

科目名	ナンバリング	区分 (必修・選択)	単位数	履修年次	開講学期等
理学療法演習Ⅱ - 1		必修	1	2	前期
担当教員	研究室	電子メール ID	オフィスアワー		
関口 賢人 他	D316	y-sekiguchi	月曜日 16:00~17:00		
授業の目的・概要	臨床現場において理学療法士が対象者の問題点の抽出し、質の高い理学療法プログラムを立案するには、正確な各種検査・測定法の実践能力は不可欠である。理学療法演習Ⅱ-1では、理学療法評価学で学習した各検査・測定項目の習熟を図ることを目的とする。まず、同時双方型授業などで検査・測定法の概要について説明を行い、その後、少人数学習で知識の定着と技術の習熟を図る。				
学習上の助言	積極的に質問し、知識と技術を深めて欲しい。				
教科書	理学療法評価学 改訂第6版/著：松澤正、江口勝彦/金原出版 ベッドサイドの神経の味方 第18版/著：田崎義昭、斉藤佳雄/南山堂 新徒手筋力検査法 第10版/著：Hislop HJ 他/協同医書出版社				
参考書	特になし				
学生が達成すべき行動目標				関連卒業認定・学位授与方針	
①	関節可動域測定に関する知識を保有し、実施できる。			PT (1)	
②	徒手筋力検査に関する知識を保有し、実施できる。			PT (1)	
③	形態測定に関する知識を保有し、実施できる。			PT (1)	
④	感覚検査に関する知識を保有し、実施できる。			PT (1)	
⑤	反射検査に関する知識を保有し、実施できる。			PT (1)	
⑥					
授 業 計 画					
回	学習内容等	授業方法	学習課題・学習時間 (時間)		
1	検査・測定の目的、基礎知識 (筋・関節) について学ぶ。 担当：関口 フィードバック：課題へのコメント等で実施。	印刷教材等による授業	指定された教科書を読み、レポート課題の提出。	1	
2	検査・測定に関する基礎知識 (筋・神経) について学ぶ。 担当：関口 フィードバック：課題へのコメント等で実施。	印刷教材等による授業	指定された教科書を読み、レポート課題の提出	1	
3	関節可動域測定 (肩甲帯・上肢) に関する基礎知識について学ぶ。 担当：関口 フィードバック：課題へのコメント等で実施。	印刷教材等による授業	指定された教科書を読み、レポート課題の提出	1	
4	関節可動域測定 (下肢) に関する基礎知識について学ぶ。 担当：関口 フィードバック：課題へのコメント等で実施。	印刷教材等による授業	指定された教科書を読み、レポート課題の提出	1	
5	関節可動域測定 (頸部・体幹) に関する基礎知識について学ぶ。 担当：関口 フィードバック：課題へのコメント等で実施。	印刷教材等による授業	指定された教科書を読み、レポート課題の提出	1	
6	徒手筋力検査に関する基礎知識について学ぶ。 担当：関口 フィードバック：課題へのコメント等で実施。	印刷教材等による授業	指定された教科書を読み、レポート課題の提出	1	
7	徒手筋力検査に関する基礎知識 (上肢) について学ぶ。 担当：関口 フィードバック：課題へのコメント等で実施。	印刷教材等による授業	指定された教科書を読み、レポート課題の提出	1	
8	演習課題を実施し、関節可動域測定の実施方法 (目的、留意事項) について学ぶ。 担当：各担当教員	同時双方型授業	関節可動域測定の実施方法に関する問題と解説	1	
9	演習課題を実施し、関節可動域測定 (上肢) の実施方法について学ぶ。 担当：各担当教員	同時双方型授業	関節可動域測定 (上肢) に関する問題と解説	1	
10	演習課題を実施し、関節可動域測定 (下肢) の実施方法について学ぶ。 担当：各担当教員	同時双方型授業	関節可動域測定 (下肢) に関する問題と解説	1	
11	演習課題を実施し、徒手筋力検査法 (上肢) の実施方法について学ぶ。 担当：各担当教員	同時双方型授業	徒手筋力検査法 (上肢) に関する問題と解説	1	
12	演習課題を実施し、徒手筋力検査法 (下肢) の実施方法について学ぶ。 担当：各担当教員	同時双方型授業	徒手筋力検査法 (下肢) に関する問題と解説	1	
13	関節可動域測定に関する知識の確認と実技練習を行う。 担当：各担当教員	面接授業 (実技)	関節可動域測定の実施方法を身に付けられるように教科書を読み、実技練習を行う。	1	
14	徒手筋力検査法に関する知識の確認と実技練習を行う。 担当：各担当教員	面接授業 (実技)	徒手筋力検査法の実施方法を身に付けられるように教科書を読み、実技練習を行う。	1	
15	形態測定、感覚検査、反射検査に関する知識の確認と実技練習を行う。 担当：各担当教員	面接授業 (実技)	形態測定、感覚検査、反射検査の実施方法を身に付けられるように教科書を読み、実技練習を行う。	1	
試	定期試験				

【2020 年度/専門科目領域/専門科目群/理学療法学科】

達成度評価							
総合評価割合 (%)		試験	レポート	成果発表	ポートフォリオ	その他	合計
		100	0	0	0	0	100
総合力指標	知識・技術力	100	0	0	0	0	100
	思考・推論・創造する力	0	0	0	0	0	0
	協調性・リーダーシップ	0	0	0	0	0	0
	発表・表現伝達する力	0	0	0	0	0	0
	コミュニケーション力	0	0	0	0	0	0
	取組みの姿勢・意欲	0	0	0	0	0	0
	問題を発見・解決する力	0	0	0	0	0	0
備 考							
評価のポイント						フィードバックの方法	
評価方法	行動目標	評価の実施方法と注意点					
試験	①	✓	学期末に定期試験を実施して評価をする。試験は授業中に使用した教科書、配布資料などの内容に基づいて出題し、理解度を問う。				試験結果に関する講評と解説を行う。
	②	✓					
	③	✓					
	④	✓					
	⑤	✓					
	⑥						
レポート	①						
	②						
	③						
	④						
	⑤						
	⑥						
成果発表	①						
	②						
	③						
	④						
	⑤						
	⑥						
ポートフォリオ	①						
	②						
	③						
	④						
	⑤						
	⑥						
その他	①						
	②						
	③						
	④						
	⑤						
	⑥						
備 考							
<p>担当教員：◎関口 賢人、高村 浩司、三科 貴博、粕山 達也、高木 大輔、池上 諒、遠藤 悠介、駒形 純也、玉木 徹、大塚 篤也、坂本 祐太 他</p> <p>教員の実務経験：運動器系理学療法（徒手理学療法）を中心に、理学療法士として13年の臨床経験、実務の経験あり。</p> <p>実践的授業の内容：担当した症例を通して学んだ理学療法検査・測定の法などを提示する。</p> <p>感染対策：大学が公表している感染対策および教員が示す授業方法を厳守すること。問題がある場合は面接授業の参加は認めない。</p> <p>遠隔授業：teams などを使った同時双方型授業を行う。授業時は通信容量が無制限の Wi-Fi 環境を推奨する。</p> <p>今後のコロナウイルス感染症の状況など社会情勢によって再度シラバスの変更がある可能性があります。</p>							